

## 市民病院再整備について

### ◇ ESP（エネルギーサービスプロバイダー）事業

新しい市民病院は、平成 32 年度に開院を目指して、現在、実施設計を行っているところであり、これにあわせて、病院に供給されるエネルギー（電気、ガス、熱）について、病院側の建設コストの抑制、エネルギーの安定供給を目的として、建屋・設備の導入からエネルギー供給までを一体的に担う事業者（プロバイダー）を選定します。選定にあたっては、昨年 9 月の市会において、条例に基づく附属機関として、「横浜市立市民病院再整備事業者評価委員会」の設置が認められましたので、プロポーザル方式による事業者選定を行うこととし、当該附属機関による評価に基づいて事業者を選定します。

#### 1 選定概要

- (1) 名称 : 新横浜市立市民病院エネルギーサービスプロバイダー事業
- (2) 対象業務 : エネルギー供給業務、維持管理・運営管理業務等
- (3) 選定方法 : 公募型プロポーザル方式
- (4) 審査方法 : 一次審査及び二次審査の二段階で実施
- (5) 評価機関 : 横浜市立市民病院再整備事業者評価委員会（委員構成は、次のとおり）

#### 【評価委員会の委員構成】

緒方 瑞穂	株式会社緒方不動産鑑定事務所 代表取締役
荻本 和彦	東京大学生産技術研究所エネルギー工学連携研究センター 特任教授
時田 繁	一般社団法人公共建築協会 常務理事
恵美須 望	横浜市建築局公共建築部長
大森 健志	横浜市立市民病院管理部長
加藤 利彦	横浜市医療局病院経営本部病院経営部長
廣段 雄治	横浜市環境創造局下水道施設部長

#### 2 今後の想定スケジュール

事業者から提出された提案書を審査し、ヒアリングを行ったうえで、優先交渉権者及び次点者を選定します。建物との一体的かつ効率的な設計を行うため、実施設計段階で ESP 事業者を選定し、基本協定を締結します。また建物竣工時に事業契約を締結する予定です。

プロポーザル公告	平成 28 年 5 月 24 日
提案書提出期限	平成 28 年 7 月 5 日
ヒアリング実施	平成 28 年 8 月上旬
優先交渉権者等の特定	平成 28 年 8 月中旬
基本協定書締結	平成 28 年 8 月中
事業契約書締結	平成 31 年 12 月（建物竣工時）
事業期間	平成 31 年 12 月～平成 47 年 3 月

## 求められるサービス水準について

### (1) 必要とするエネルギーの量

ピーク時及び非常時における 1 m<sup>2</sup>あたりのエネルギー需要量を次のとおり想定し、提案を求めます。

	電力	冷房	暖房	給湯	蒸気
ピーク負荷（時間最大）※1	43W	377KJ	343KJ	167KJ	140KJ
年間エネルギー使用量	199kWh	335MJ	310MJ	324MJ	385MJ
非常時負荷（時間最大）※2※3	22W	76KJ	69KJ	17KJ	70KJ

※1 ピーク負荷：最近5年間に建設された病院の実績から想定した年間最大エネルギー需要量

※2 非常時負荷：平均時負荷（年間を通して平均的な時間当りエネルギー需要量）の60%を想定

※3 地震等の大規模災害時において、電気・ガスの外部からの供給が途絶した場合でも、非常用発電装置等により、現行の災害拠点病院の基準を上回る7日間について、病院機能を維持できるエネルギー供給能力を求めます。

### (2) 当事業における年間支出上限額

693,000 千円（税抜）

なお、上記金額は、建屋・設備の導入費用及び電気・ガスの利用料金の合算額を平準化して算出したものです。

## <参考>

### ◇ ESP事業導入のメリット

ESP（エネルギーサービスプロバイダー）事業の事業者が、エネルギー供給に必要な建屋、設備を整備した上で、運転・維持管理までを一体的に担う事業手法です。

この事業手法を導入することにより、病院事業にとっては、

- ① 建設費・設備導入費等の初期投資の抑制
- ② 高い専門性を持つ事業者による安定的・効率的なエネルギーの供給や設備の維持管理の実現
- ③ 事業期間内における施設整備費、運転・維持管理までを含めたトータルコストの抑制や平準化

などのメリットがあります。

## <市民病院におけるコスト比較（想定）>

現病院の実績、及び他病院の整備事例等に基づき、直接整備した場合とESP導入により整備した場合のコストの比較

### 【比較表(想定)】

(単位：億円)

		直接整備した場合	ESPによる整備の場合	備考
施設整備費		24.5	24.5	建設費は同額を想定
維持・運営管理費		16.2	15.5	事業者のノウハウを活用
その他		1.0	8.3	資金調達・公租公課等
光熱費		64.1	55.8	事業者による効率性向上
想定支出額	15年間	105.8	104.1	
	年間	7.1	6.9	

### ◇ 他病院における主な導入実績

病院名	所在地	病床数	供用開始
東海大学医学部付属病院	神奈川県	804床	平成16年10月～
三井記念病院	東京都	482床	平成20年12月～
大崎市民病院	宮城県	500床	平成26年4月～
常滑市民病院	愛知県	267床	平成27年5月～

1 計画概要

(1) 敷地計画

所在地	[神奈川県側] 神奈川県三ツ沢西町 34 番地 10 他
	[西区側] 西区宮ケ谷 25 番地 6
病院敷地面積	[敷地全体] 29,422.81 m <sup>2</sup> ([神奈川県側] 23,860.23 m <sup>2</sup> [西区側] 5,562.58 m <sup>2</sup> )

(2) 建物概要

階数・構造	診療棟	地下2階/地上7階/塔屋1階 鉄骨造一部鉄筋コンクリート造(免震構造)
	利便施設棟	地下1階/地上2階 鉄骨造
	管理棟	地上4階 鉄骨造
	その他	エネルギー棟 他 鉄骨造
建築面積	[敷地全体] 13,662.84 m <sup>2</sup> ([神奈川県側] 10,742.99 m <sup>2</sup> [西区側] 2,919.85 m <sup>2</sup> )	

延床面積	[敷地全体] 63,534.47 m <sup>2</sup> 【駐車場含 78,806.04 m <sup>2</sup> 】
	[神奈川県側] 57,632.30 m <sup>2</sup> 【駐車場含 68,053.03 m <sup>2</sup> 】
	[西区側] 5,902.17 m <sup>2</sup> 【駐車場含 10,753.01 m <sup>2</sup> 】
計画外来者数	1,200 人程度/日
計画病床数	650 床
	一般病床 536 床 / ICU・CCU 14 床 / 救命救急病棟 28 床 / NICU・GCU (新生児集中治療室及び新生児回復室) 21 床 / 感染症病床 26 床 / 緩和ケア病床 25 床)
駐車場	403 台

※今後、実施設計の進捗により、修正する場合があります。

2 配置計画

- 道路で分けられた2つの敷地に対し、神奈川県側に診療に係る主な機能を集約した診療棟などを、西区側に病院管理に係る機能を集約した管理棟を配置します。
- 診療棟の北東側にはタクシー、バス等の車寄せとなるロータリー、レストランやカフェ等を集約した利便施設棟を配置します。
- 診療棟の西側には、病院機能の維持に係る機能を集約したエネルギー棟等を配置します。

3 外部動線計画

(1) 患者の動線

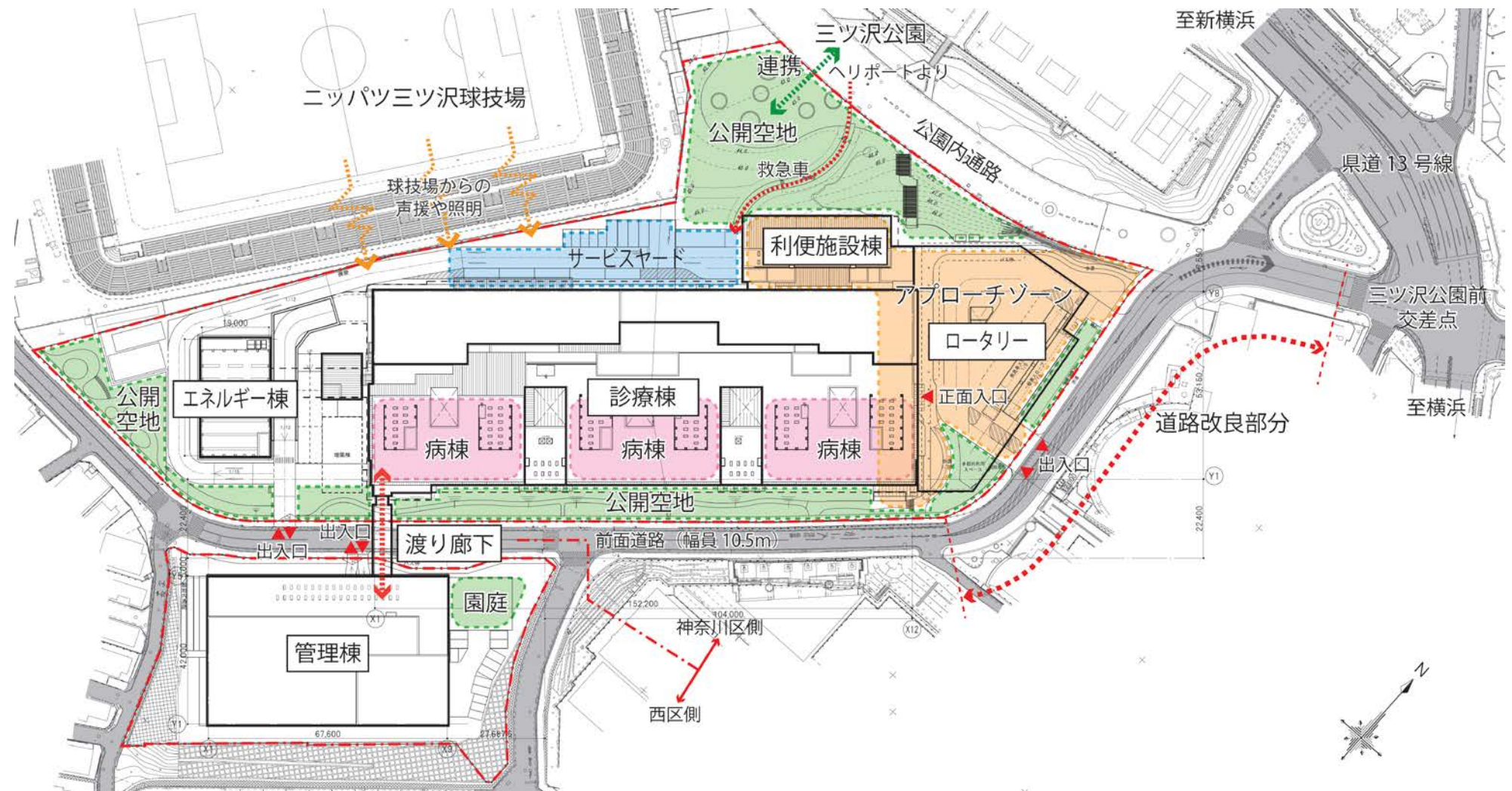
- 病院の主な出入口はロータリーに面した診療棟東側に配置し、前面道路レベルと合わせた1階部分とします。
- 神奈川県側の敷地は、前面道路側に歩道状公開空地を設けて現状の狭い歩道環境を改善し、病院利用者をはじめ周辺住民にも配慮した安全で快適な歩行者動線を形成します。

(2) 救急車動線

- 主にロータリーからのアプローチとしますが、災害時に公園側や西区側からもアプローチができる計画とします。

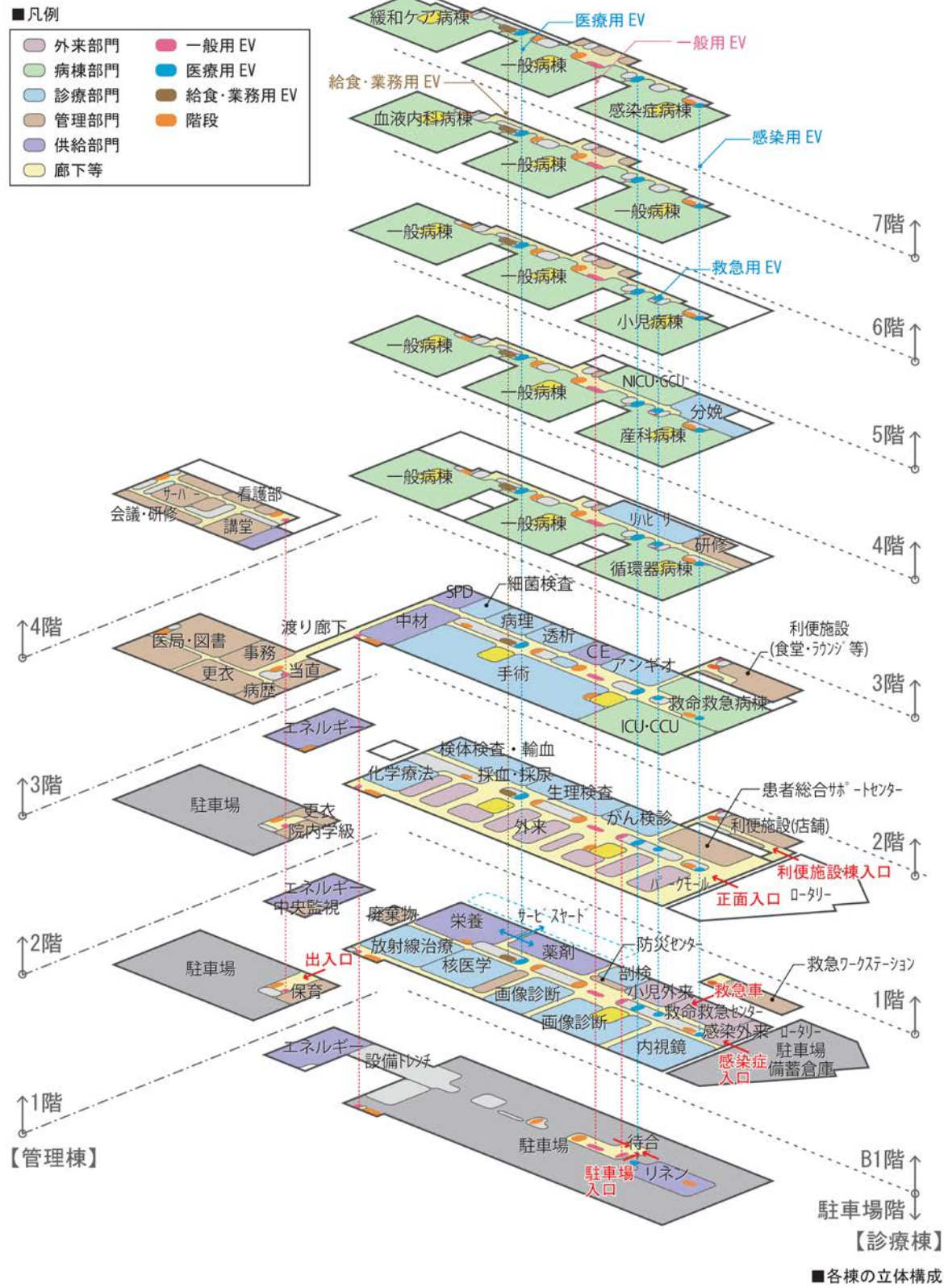
(3) 一般車両動線

- 一般車のメインアプローチは、ロータリーへの右折進入による三ツ沢交差点付近の渋滞を防止するため、敷地西側からも地下駐車場に入場することができます。
- バス・タクシーは病院の主出入口に近いロータリーに進入する計画とし、タクシーの出庫については原則左折とすることで、周辺交通の安全性を確保します。





#### 4 立体構成



#### 全体スケジュール

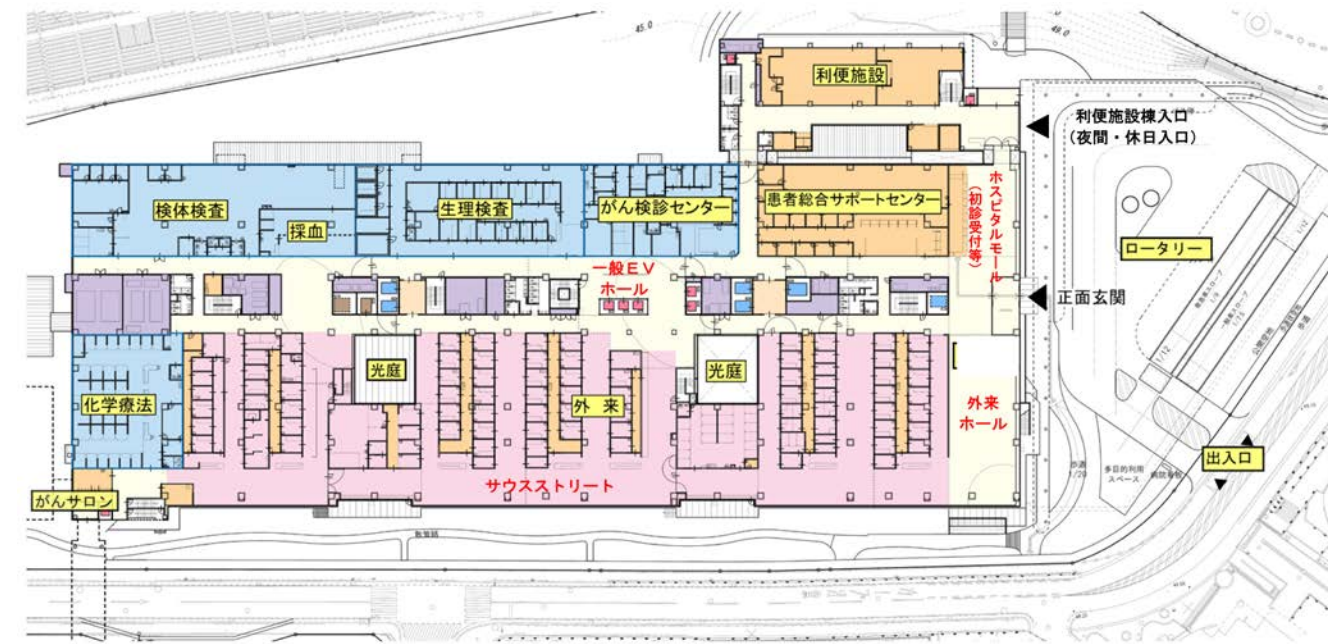


#### 5 代表的なフロアの計画

##### ◇地下1階



##### ◇1階



##### ◇5階

